

盲人の手を引くイエス

マルコによる福音書 八章 22〜26 節

イエスは盲人の手を取って、村の外へ連れ出し、その両目に唾をつけ、両手をその人の上に置いて、「何か見えるか」とお尋ねになった。(23)

主イエスは盲人を癒すために、この盲人の手をとって導いて行かれます。転びそうになる盲人の手をしっかりと握り、歩調を合わせて歩まれます。盲人はただ、手を引いてくださる主イエスに信頼して素直に身をまかせただけでした。私たちも目が開いてから主に従うのではなく、目が開かれる前から、すでに主イエスに手を引かれているのです。自分で歩けるからと主の手をふりほどくのは傲慢です。このような汚れに満ちた手を引いていただくのは恐れ多いと辞退するの、謙遜なようでありて頑迷です。私たちはこの盲人と同じように、素直に身をまかせしかありません。私たちも、主によって霊の目を開いていただくべき盲人の一人なのです。たとえどこへ導かれるのか知らされなくても、私たちは主に信頼して従いましょう。主は責任をもって最後まで導いてくださいます。